

令和6年度高齢者実態把握調査の結果について

鶴ヶ島市健康部健康長寿課

1 目 的

要介護状態になるおそれのある高齢者を早期に把握するとともに、リスクについて分析を行い、介護予防事業を効果的に展開することを目的とする。

2 対象者

調査対象	令和6年6月1日現在、75 歳以上の高齢者で、事業対象者・介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方
対象者数	8,708人
調査期間等	令和6年7月19日から令和6年8月31日まで（郵送による配布・回収）

3 回答者数

項 目	調査対象者数	回答者数	回答率
市全体	8,708人	6,928人	79.6%
男 性	4,159人	3,289人	79.1%
女 性	4,549人	3,639人	80.0%

※前回調査（令和3年度）の市全体の回答率は66.8%であった。今回の調査については、回答を促すハガキを別途送付することにより、回答率を12.8ポイント上げることができた。

4 市内の状況

- 7つのリスク（(1)生活機能低下、(2)運動機能低下、(3)低栄養、(4)口腔機能低下、(5)閉じこもり、(6)物忘れ、(7)うつ傾向）について、1個以上リスクが該当する方の出現率は49.8%であった。⇒リスク項目に1つも該当しない元気高齢者は50.1%
- 市全体では、「(7)うつ傾向」が29.2%で最も高くなっており、次いで、「(4)口腔機能低下」が19.9%、「(2)運動機能低下」が16.8%となっている。

5 回答者及び未回答者の状況

回答者					⑥未回答者
①元気高齢者 (項目該当なし)	リスクのある高齢者（3,455人）				
	②リスク大 (10 項目以上該当)	③リスク中 (5～9項目該当)	④リスク小 (1～4項目該当)	⑤判定不能者	
3,473人	446人	1,830人	1,172人	7人	1,780人

※上記表については、生活機能全般（7つのリスクのうち(1)～(6)）に該当する項目数によって分類している。(1)～(6)の項目数は、合計21項目である。

6 訪問の状況

訪問期間	令和6年9月26日から令和7年3月31日まで
訪問員	市生活支援員（4名）、地域包括支援センター職員

7 訪問対象者

訪問員	訪問対象者	訪問対象者の内訳
生活支援員	4,135人	・③リスク中 ・⑤判定不能者 ・⑥未回答者 ・上記の方と同居している①元気高齢者、④リスク小
地域包括支援センター	599人	・②リスク大 ・上記の方と同居している①元気高齢者、③リスク中、④リスク小、⑥未回答者
合計	4,734人	

8 訪問結果

(1) 訪問等の内訳

訪問員	訪問対象者	訪問等の内訳						市の事業への参加等により確認	転出死亡等
		合計	面会	電話	親族から確認	関係機関から確認	不在		
生活支援員	4,135人	2,594人	1,765人	19人	810人	0人	1,107人	312人	122人
地域包括支援センター	599人	451人	330人	32人	87人	2人	93人	52人	3人
合計	4,734人	3,045人	2,095人	51人	897人	2人	1,200人	364人	125人

(2) 支援等（状況確認）の内訳

訪問員	合計	支援等（状況確認）の内訳					
		特に支援の必要がない	包括または関係機関につないだ	介護予防事業につないだ	介護認定申請につないだ	継続的な見守りが必要	その他
生活支援員	2,594人	2,515人	7人	0人	0人	72人	0人
地域包括支援センター	451人	346人	4人	4人	31人	60人	6人
合計	3,045人	2,861人	11人	4人	31人	132人	6人

9 訪問の総括

- ・ 元気な高齢者が多く、ウォーキングや体操などの運動を自主的に行っている方や、地域等との交流が活発な方ほど元気な様子であった。
- ・ 支援が必要な方については、介護予防事業や介護認定申請につなぐなど、適切に対応することができた。また、訪問時に「特に相談ごとがない方」が、後日、介護認定等の相談につながるなど、訪問により、市や地域包括支援センターの相談窓口を知っていただけたきっかけにもなった。
- ・ 継続的な見守りが必要な方や不在により心身状況等を確認することができなかった方については、令和7年度も訪問を継続し、支援の必要性の有無等を確認する。